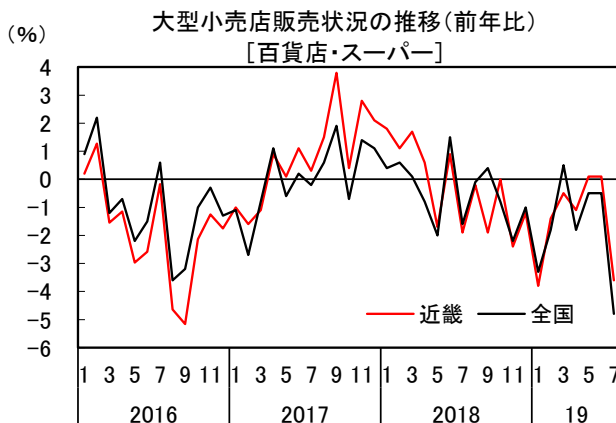
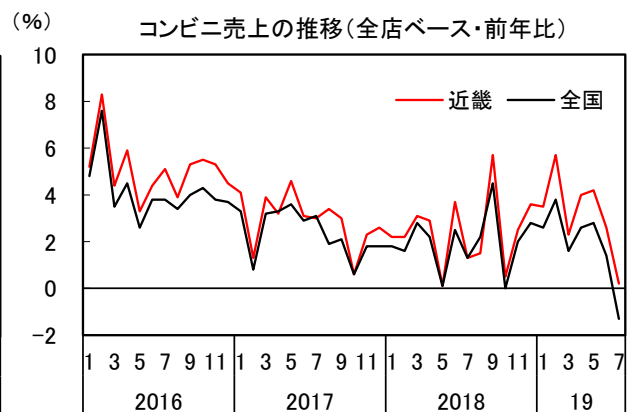


関西の景気トピックス【消費関連（19年7月）】

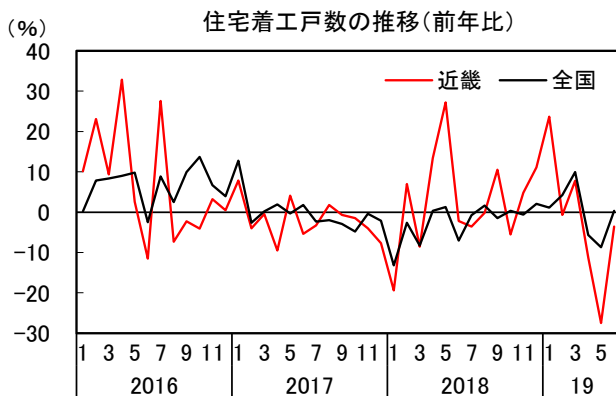
- 19年7月の大型小売店販売状況（経済産業省）は前年比マイナス3.6%と3か月ぶりの減少となっている。梅雨明けの遅れや気温の上昇の遅れから、夏物商材の売行きが芳しくなかったことが要因とみられる（業態別には、百貨店が前年比横ばい、スーパーがマイナス6.2%）。
- コンビニ売上（経済産業省）の7月は全店ベースで前年比プラス0.2%と、伸び率の低下。梅雨明けの遅れや、出店ペースの低下も響いたとみられる。
- 住宅着工戸数の（国土交通省）6月は、前年比マイナス3.6%と3か月連続の減少となった。持家は11か月連続でプラスとなり、分譲も2ケタ増となったが、貸家の減少が響いた。
- 毎月勤労統計調査（厚生労働省）でみた賃金動向については、大阪（5月）は一進一退の動きで依然として力強さには欠けており、消費増税に向けて心配な動きとなっている。



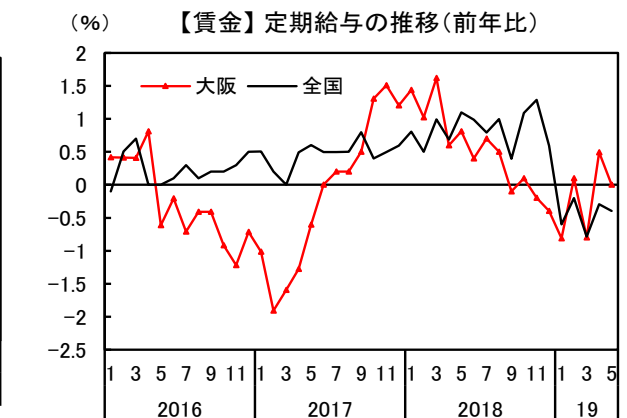
(出所)経済産業省「大型小売店販売状況」



(出所)経済産業省



(出所)国土交通省「建築着工統計」



(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」